

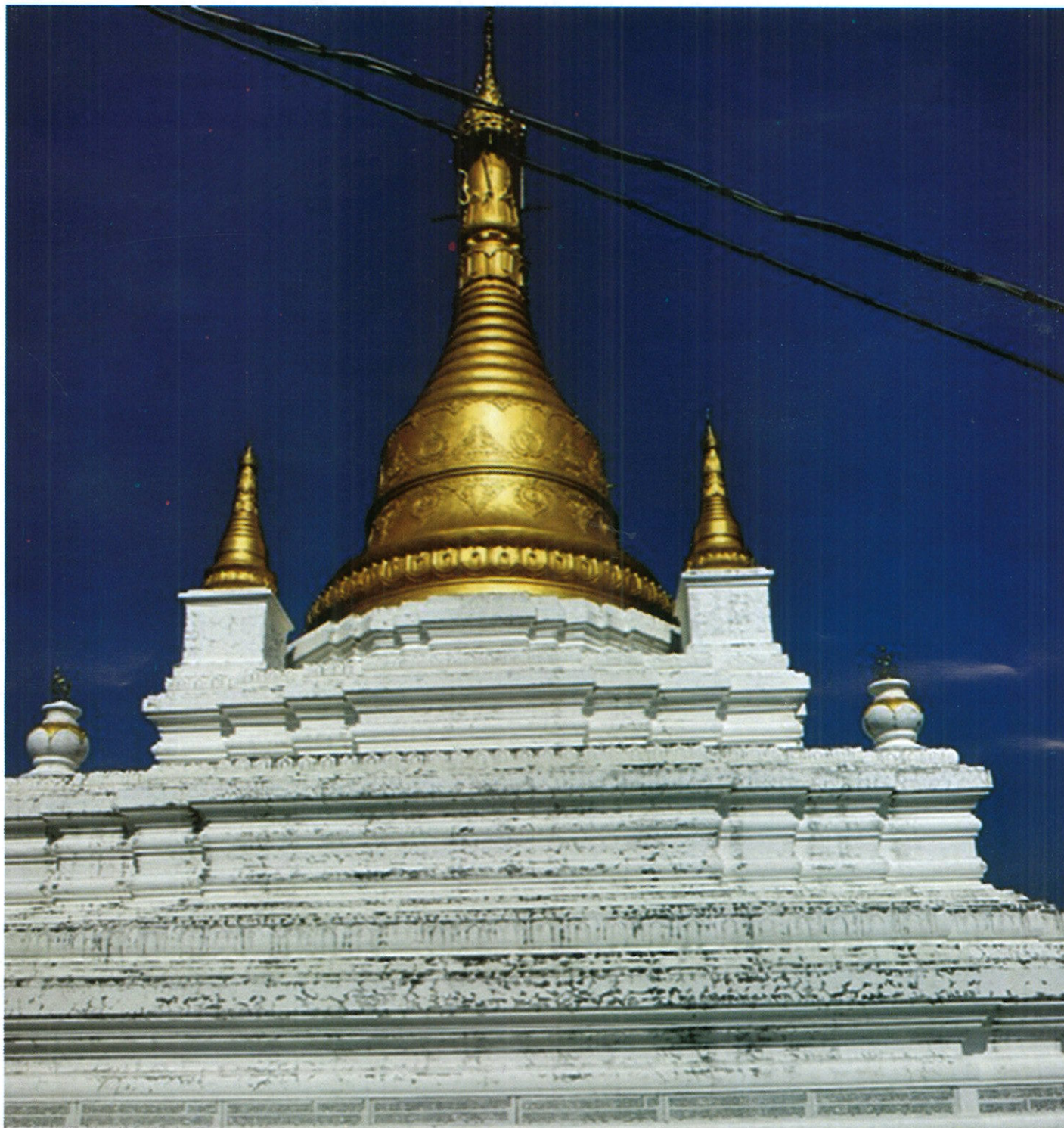
7千もの英霊たちが眠るザガインの「日本人墓地・パゴダ」が損壊 ミャンマーの”良心”がついに立ち上がり「復興修復事業」へ動き出す 「ミャンマー・日本社会経済開発協会」(AMJSEDC)が発起人として提案

パゴダの写真をメインとして入れる

ミャンマー（旧ビルマ）における旧日本兵の戦死者は約19万人といわれている。遺骨収集は、「インパール作戦」などで亡くなった約13万7,000柱の戦没者のうち、未だ約4万5,000柱が現地に残されており、現在は現地の内戦激化や政情不安によって日本への帰還調査が極めて困難な状況に直面している。厚生労働省などの「戦没者の遺骨収集事業」において国の責務と定められ、令和11年度（2029年度）までの集中実施期間として進められているが、現実には厳しい。

その要因は「インパール作戦」後の退却路（通称：白骨街道）などでは部隊が混乱して全滅・逃亡したため、死亡場所の公的記録がほとんどない。また戦後81年が経過し、埋葬場所などを知る現地の高齢者が減ったなどが挙げられるが、日本政府や民間調査団が激戦地（チン州やカヤ州など）へ立ち入ることが難しくなっていることも輪をかけている。

国の公式な収集・発掘作業が制限される中、民間団体や僧侶による命がけの所在調査は続けられている。福岡県出身の僧侶である井本勝幸氏をはじめとする民間ボランティアが、ミャンマーの少数民族コミュニティと信頼関係を築き、1,500柱以上の遺骨情報を特定してきた。しかし日本政府は発見された遺骨の回収・鑑定は行うが、民間の事前調査（現地の人づての情報収集など）には公的資金を出しにくいいため、ミャンマー／ビルマご遺骨帰国運動などの民間募金や寄付によって賄われているのが現状だ。

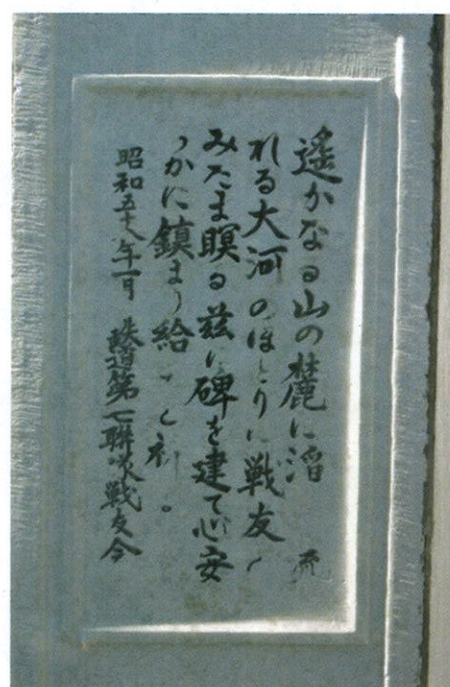
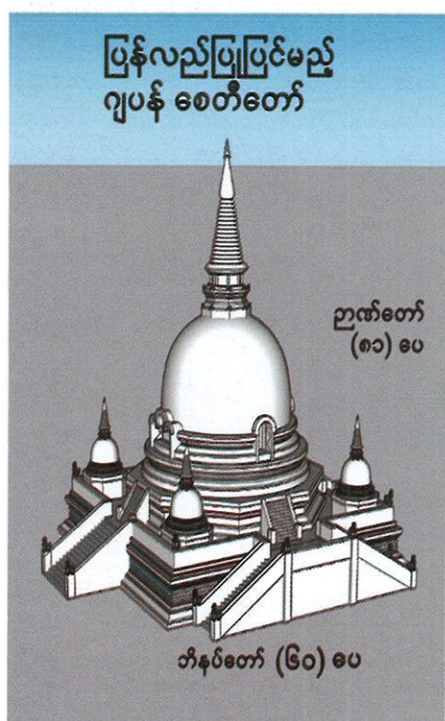
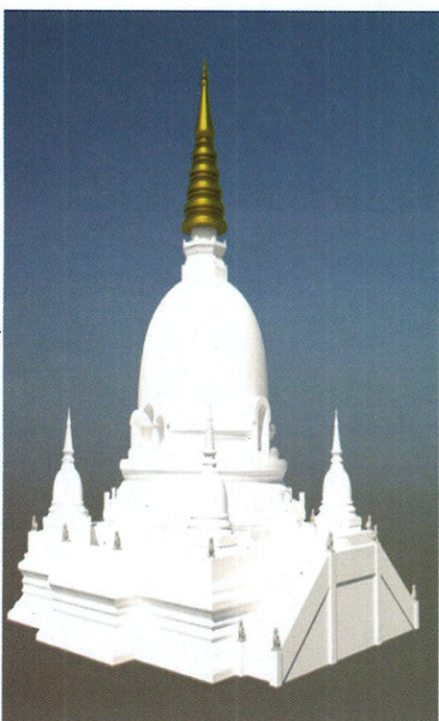


損壊前の「日本パゴダ」

ザガインの日本人墓地とパゴダが損壊

ミャンマー第2の都市マンダレー近郊のザガインヒルには、先のビルマ戦線で亡くなった約19万人のうち約7,000名の日本兵を慰霊する「日本パゴダ（仏塔）」と、日本人墓地が建立されている。丘の上にあるこの聖地は、コロナ禍や政変が起きる前までは、日本人訪問者、慰霊者や現地の仏教徒や僧、たちによって大切に守られてきた。

大戦で多くの犠牲者が出たこの地に、建立の発起人として戦友会や遺族会が中心となり、地元ミャンマーの方々の協力のもと建立された。標高約200メートルのザガインヒル（丘陵地帯）に位置し、黄金色の仏塔と日本式の石碑が印象に残る。記念碑には四国を中心とした部隊の英霊の名が刻まれている。まさ慰霊地としては申し分のないたたずまいをみせていた。



鎮魂碑とその後ろに記されている言葉

ミャンマー人主導による復興修復事業への支援を

昨年3月、ミャンマー中部ザガイン地域を中心にマグニチュード7.7の大地震が発生した。「ザガインヒル」のこの日本人墓地とパゴダもこの地震により、損壊または一部崩壊した。「日本パゴダ」の仏塔の上部や礼拝堂が崩落するなど、甚大な被害が発生した。

この「日本人墓地とパゴダ」は、コロナ禍や政変が起きる前は、マンダレーの観光コースの一部として古都「インワ」などとともに、多くの日本人が訪れていた。そして維持管理の費用の多くを、慰霊のために訪れる日本人観光客、日系企業などの寄付によってカバーされてきた。

だが、2021年の政変以降に続く内戦の影響により、この地域では外国人の立ち入りが制限され、観光客や遺族が容易に訪問できない状況が続いている。そのため寄付金や援助も大幅に減り、「日本パゴダ」の修復もいまだ目途が立っていなかった。

ヤンゴンには日本政府が建てた「日本人墓地」（ビルマ平和記念碑）があり、現地日本人コミュニティの親睦組織であるヤンゴン日本人会が、日本政府の支援を受けながら管理・運営の一部を担っている。だからヤンゴン在住邦人の中には「ヤンゴン日本人墓地以外の慰霊碑等の維持管理」についても、何らかの対応を行いたい」という思いの方は少な



くない。しかし政変以降、日本人会員数が大幅に減少し、予算規模も縮小する中、国内各地に点在する慰霊碑の維持管理まで手を広げるのは容易ではなくなった。

そうした窮状を見て立ち上がったのが、SHWE ZAB Groupの会長で、ミャンマーと日本との友好と社会貢献活動続ける「ミャン

マー日本社会経済開発協会」（AMJSEDC）を率いるThan Naing 氏である。

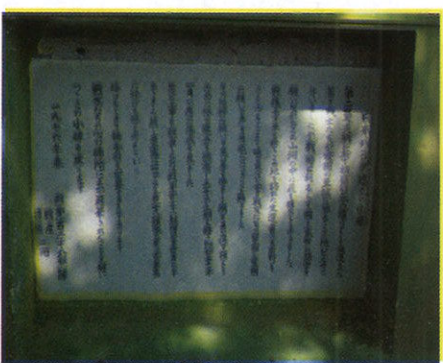
すでに賛同企業を募り、復興プランも具体的にになってきた。Than氏は日本語が堪能で、日本の政財界とも深いパイプを持つ実業家だが、長年にわたる日本との関係や日本を想う心から、今回のプロジェクトを立ち上げ

たそうだ。

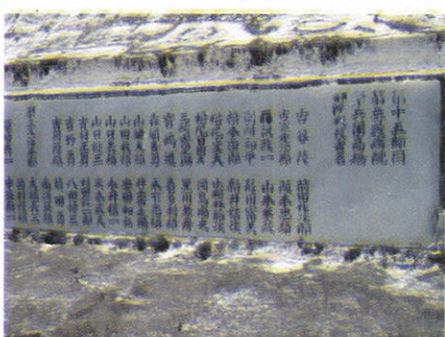
AMJSEDCでは広く賛同者を求めている。もちろん日本の方々からの支援も大歓迎である。弊紙8月においてさらに詳細をお届けする予定だが、関心のある方は下記のMail: myanmar.japan.sedc@gmail.comへといわせてみるとよい。



丘の上にある「高知パゴダ会」の慰霊



四国出身の英霊が数多く眠る「日本人墓地」



無数の戦没者名が列記されているが遺骨発見は困難を極めている

